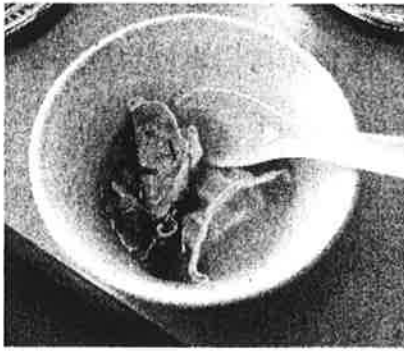


ギョーザ製造の信栄食品

シンガポールへ輸出

【松本】ギョーザ製造の信栄食品(長野県松本市、神倉藤男社長)はシンガポールへの商品輸出を始めた。現地の輸入規制に合わせて牛肉や豚肉は使わず、豆腐を入れて食感をよくした。鍋の中で

長時間煮ても崩れないよう皮も厚くした。写真。



シンガポールの商社経由でマレーシアやインドネシアにも出荷するという。今後1年で約3600万円の売上高を目指す。

野菜が主な具のギョーザとサーモンを入れたギョーザの2種類。タレで味を変える食文化に合わせて淡泊な味つけにした。調理時間を守る日本の消費者と違い、現地では鍋に長い間入れたままにすることが多いといい、30分煮ても崩れないよう皮を厚くした。

同社はこれまでも日本の商社を通じてオーストラリアやタイなどに商品を出荷してきた。